

## 序文

著者	宇野 隆夫
会議概要（会議名，開催地，会期，主催者等）	アジア新時代の南アジアにおける日本像：インド・SAARC 諸国における日本研究の現状と必要性，ジャワハルラル・ネルー大学，2009年11月3日-4日
ページ	5
発行年	2011-03-25
その他の言語のタイトル	Foreword
シリーズ	インド・シンポジウム 2009 International Symposium in India 2009
図書名	アジア新時代の南アジアにおける日本像：インド・SAARC諸国における日本研究の現状と必要性
URL	<a href="http://doi.org/10.15055/00001222">http://doi.org/10.15055/00001222</a>

## 序文／Foreword

インドでは紀元前 3000 年紀にインダス文明が栄え、紀元前 1000 年紀に仏教が始まりました。この古代文明や宗教はインドの領域にとどまらず広い地域に広まって、各地の社会・文化の発展に貢献しました。東アジア・日本にも、古代インドに起源をもつと考えられる多くの文化があります。

中世に海のシルクロードが盛んになると、インドには東アジア・東南アジアと西アジアをつなぐ貿易拠点都市が栄えて、経済交流が活発化して近代に至りました。また近代には美術・宗教をはじめとする分野で日印の直接的な交流が始まり、第 2 次大戦後には政治・経済・文化の多くの分野における交流が一層活発化しています。

国際日本文化研究センターは毎年、海外の日本研究拠点において、日本研究の振興と研究者の交流をはかるための海外シンポジウムをおこなっていますが、2009 年度にはインド・日本の長い交流の歴史を背景として、シンポジウム「アジア新時代の南アジアにおける日本像ーインド・SAARC 諸国における日本研究の現状と必要性」をインド・デリーのジャワハルラル・ネルー大学において開催いたしました。

本シンポジウムには日本・インド・バングラディシュ・ネパール・スリランカから 25 名におよぶ日本研究者に参加いただき、古代から現代におよぶ考古学、仏教、芸術、文学、政治、経済、社会学の最新の研究成果を発表していただきました。本書はその成果報告書であり、今後の日本研究と研究者交流に大きく寄与するものと考えます。

本シンポジウムは、ブラットウ・アブラハム・ジョージ教授をはじめとするジャワハルラル・ネルー大学のスタッフ、国際交流基金ニューデリー日本文化センターはじめ、多くの機関、方々から多大な協力を得て実施したものです。本シンポジウムの開催に協力頂いたすべての方々に、改めて厚くお礼申し上げます。

国際日本文化研究センター教授（シンポジウム実行委員長）

宇野隆夫